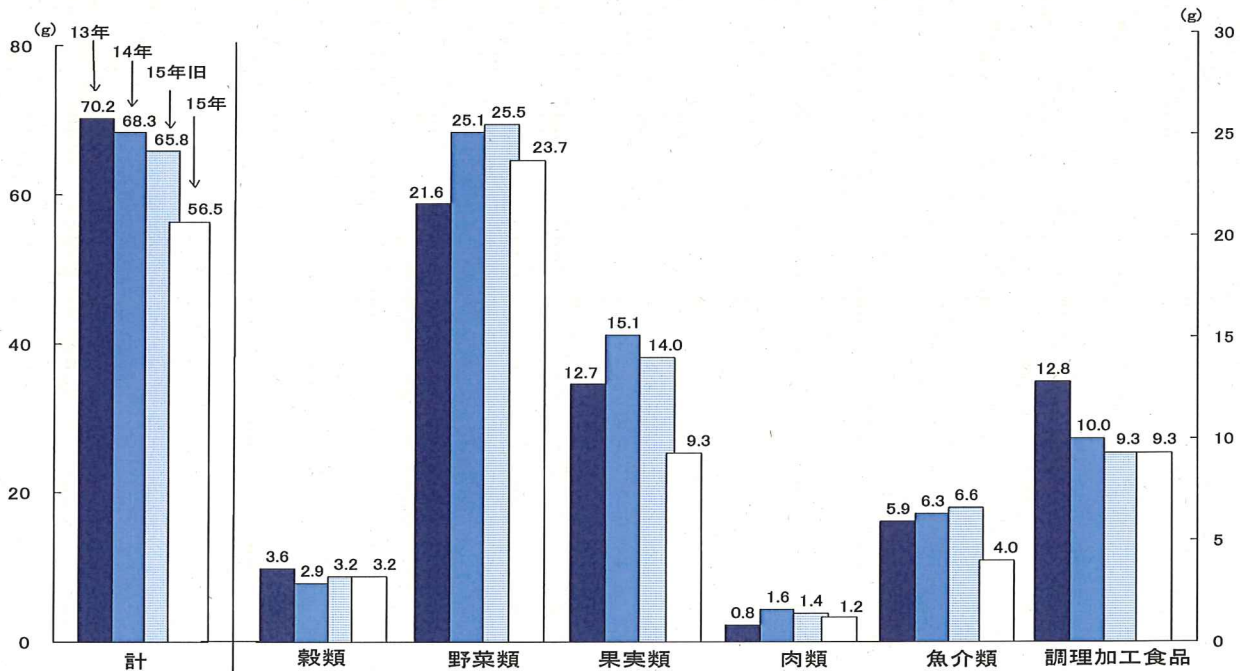


2 世帯における食品ロス量

主な食品類別の食品ロス量をみると、食品使用量の動向に伴い、穀類、野菜類は増加し、果実類、調理加工食品で減少している。

なお、15年の新方式では食後に食卓に残った不可食部分（魚の骨や果物の皮等）は食べ残しとしないよう改善したことから、果実、魚介類等では旧方式に比べ食品ロス量は少なくなっている。

図20 食品類別の食品ロス量（世帯食1人1日当たり）

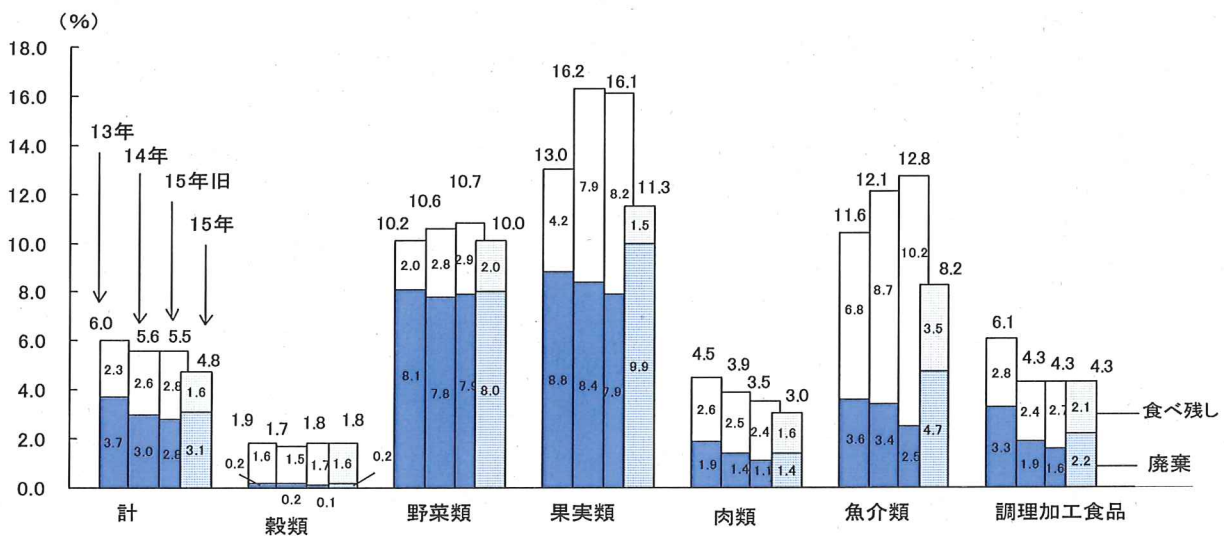


3 世帯における食品ロス率

食品ロス率は前年をわずかに下回る5.5%となった。

これを主な食品類別にみると、果実類、魚介類及び調理時の過剰廃棄が多い野菜類で高くなっている。

図21 食品類別の食品ロス率



注：15年調査では食べ残しの一部が過剰廃棄として計算されるため、15年旧と15年とを比較すると、食べ残し率は低下し、廃棄率は上昇する。